

たかやま共創ミーティング（第5弾：多文化共生）

【テーマ】誰もが働きやすく、暮らしやすい多文化共生社会について考える

■ミーティング内容（参加者の意見等）

市民メンバーによる提案と回答

①情報関係

- ・ベトナム国籍の在住外国人などはSNSで繋がっているため、キーパーソンとなる人に生活情報を流せば、周知してもらえると思う
- ・在住外国人がどこに居住していて、雇用されているかなどの情報は転入時に把握できるため、その時に必要な情報を市民課から提供もしくは秘書交流課にて収集できないか
- ・在住外国人の受入事業所に、在住外国人に関わる情報を提供して、受入事業者でイベントや日本語講座のチラシを張り出すなどしてもらってはどうか
- ・今回の共創ミーティングのように、在住外国人と市民が一緒になって話せる場をつくってはどうか

②日本語教育

- ・在住外国人の日本語学習の保障は受入企業が行うべきではないか
- ・日本語講座などをサポートするボランティアの人を組織化してはどうか
- ・ボランティアの養成講座を開催してはどうか
- ・海外から日本に来た人にとって、日本語を学ぶ機会がなく言葉の壁は大きい
ため、日本語教室をしっかりとできるような体制を整えてほしい

※日本語講座は「仕事で使う日本語講座」など、日本語を使う場面を意識した内容やレベルに合わせて初級等を開催しているほか、市民向けに「やさしい日本語」講座を7月に実施し、12月にも開催する。引き続き継続していきたい

③交流

- ・子ども会、町内会へ加入してもらい、一緒になって様々な地域活動や伝統行事に取り組んでいけばどうか。そこで、お互い教えたり習ったりすることで、信頼関係もでき、自立にも繋がる
- ・祭りに参加してもらい、伝統に触れてもらってはどうか
- ・日本人も含め、転入転居してきた方の町内会への加入率が低い。町内会への加入案内をしたいが、転入転居してきた方なのか民泊の方なのかがわからない。できれば、転入時に町内会の案内をしてもらいたい
- ・在住外国人が出身国の文化を共有できる国際交流イベントや在住外国人に特化しない市民全体を対象とした運動会を開催してはどうか
- ・下呂市のように地域で交流ができるといい
- ・市民とふれあう機会と拠点があるといい

④暮らし・生活

- ・在住外国人は車の免許を持っていない方が多い。支所地域にいる在住外国人

は買物やイベントへの参加が難しいため、スクールバスなどを活用してはどうか

- ・在住外国人が助けてほしいことがあったら、Web フォームで相談する方法はどうか。申し込んだ後、ボランティアの方とマッチングしてはどうか
- ・在住外国人はごみの捨て方が難しくてわからない。正しいルールを市や職場でしっかり教えてほしい

※市では、事業者に出向き、出前講座としてゴミの捨て方などのレクチャーをしているため、依頼などいただければ何う

- ・ゴミカレンダー「サンアール」というアプリの多言語化ができないか

⑤仕事

- ・今回の共創ミーティングのように在住外国人が集まって話せる場を作る際には、外国人受入事業者から 1 人ずつ参加してもらうようにしてはどうか。
- ・外国人受入事業者にキーマンができれば、在住外国人への理解が深まり、多文化共生を理解する人が増えるのではないか

※少子高齢化により働き手不足が顕著となり、東川町の日本語学校の生徒と市内事業者とのマッチングをしている

⑥相談窓口

- ・月に何回かを外国人相談の日として広報してはどうか
- ・気軽に相談できる SNS を活用しながら、相談員を在住外国人の方に担ってもらう組織運営にしてはどうか
- ・1 階に外国人の手続きが多いので、外国人相談窓口を 1 階にしてはどうか
- ・可児市のような多文化共生を推進する施設を設置して、気軽に相談や交流ができる場所の提供をしてはどうか。その際、国際交流を担っている飛騨高山国際協会が運営してはどうか

⑦その他

- ・飛騨高山国際協会の活動をもっと市民に分かるようにしっかりやっていくことを明確にしてほしい。国際交流と多文化共生をしっかり実施してほしい
- ・今までは飛騨高山国際協会において多文化共生への本気度が不足していたと感じる。在住外国人がよりどころとなる場所や組織が必要である

※飛騨高山国際協会が自主的な活動ができるよう行政として支援が必要である